



鎌倉フェロシップ
KAMAKURA FELLOWSHIP

ゆいまーる Dialogue



よりよい育英支援のため、鎌倉フェロシップのステークホルダー間でのダイアログ（対話）を推進します。

～きかせて下さい～
ご質問、必要な書籍、学習上の悩み、どんなことでも

foundation@kff.or.jp

No.5 2026 年 夏季号

(2026 年 8 月 1 日発行)

夏越し風 赤き羽揺れ 縁うれし 千秋

6 月末、講演先の愛媛県共同募金会（赤い羽根）のご紹介で、当活動を支援する俳句企業マルコボコム社（テレビでおなじみの俳人・夏井いつきさんが創設）を表敬訪問した際の一句です。

出会い、未来をひらく

法律を学ぶ皆さんの情熱と努力は、社会に希望をもたらします。鎌倉フェロシップは、その歩みを支える奨学金事業を続けてきました。今では多くの卒業生が、法曹界や地域社会で活躍されています。

今年、司法試験 CBT 方式が導入され、法曹を目指す環境も新たな時代を迎えました。今から約 20 年前のある年に当財団が奨学生の選考を行った際には、東京と沖縄をテレビ会議システムで結び、面接を実施しました。今ではスマートフォンやパソコンで簡単につながれますが、当時は専用の機材と会場を時間単位で借り、そのために一月前ほどに契約書を取り交わすという少し特別なものでした。

時代や技術が変わっても、人から学び、出会いによって視野を広げることの大切さは変わりません。今年も恒例の「奨学生デイ」を開催します。現役奨学生、卒業生、先輩方が肩書きや年次を越えて集うランチ交流会です。何気ない会話や思いがけない出会いが、迷いを晴らし、次の一步につながるかもしれません。

おいしい食事を囲みながら、楽しく、ざっくばらんにお話ししましょう。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

(代表理事 鎌倉 淳爾)

奨学生選考プレゼンテーション

代表 鎌倉淳爾

理事 宮國葉子

理事 富眞正姫

司会 鎌倉千秋



奨学金選考委員会委員の経歴詳細については、
2024 年 5 月 23 日号、8 月 2 日号をご参照ください。
<https://npo.kff.fund/3>

" 奨学生デイ " 日時：8 月 29 日（土）13:30 ～ 15:00
(※ ご招待の方：無料) 会場：沖縄プリンスホテル「JINON」

◆今後の予定◆（詳細はウェブから）

8 月下旬 おきなわロースクール奨学金プレゼンテーション
9 月中旬 その他 奨学金（追加募集）および選考会
10 月中旬 すべての奨学金の目録贈呈式・第一回給付

◆コラム◆ 理事の日常

「脱炭素社会の実現に向けて」 宮國 葉子（みやくに ようこ）

皆さん、こんにちは！ 第 1 期生の宮國です。私は現在、石油会社で新規事業として SAF（持続可能な航空燃料）の事業化に携わっています。法律の話からは少し離れますが、航空分野における脱炭素化の技術や、沖縄から世界へ発信できる可能性について、少しでも興味を持ていただければ嬉しいです。

SAF は、植物や廃食油などを原料とし、従来のジェット燃料と同様に航空機で使える次世代の燃料です。国連の専門機関である ICAO（国際民間航空機関）は、2050 年までに国際航空分野の CO₂ 排出量を実質ゼロとする長期目標を掲

げており、その実現に向けて SAF の普及が世界中で進められています。

航空分野の脱炭素化は、エンジンの高効率化や省エネルギー運航、SAF や将来的な水素燃料への転換、さらには排出量取引など、さまざまな取組を組み合わせ

て進められています。中でも SAF は、ライフサイクル全体で従来のジェット燃料と比べて約 60 ～ 80% の CO₂ 排出削減効果が期待されています。

私が勤務する会社でも、西原町にある既存の石油設備跡地を活用し、SAF 製造プラントの建設を計画しています。環境負荷の低減だけでなく、

沖縄のサトウキビを活用した地産地消のエネルギー生産や雇用の創出にもつながる可能性があり、沖縄から持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。



編集後記

今回の寄稿には、持続可能性という大きな課題を、エネルギーや地域産業だけでなく、制度や社会の仕組みまで含めて考える宮國理事の視点がよく表れているところが印象的でした。

奨学金の選考でも、学生のお話を穏やかに受け止めながら、本質を捉えた問いで、その人自身もまだ言葉にできていない考えや可能性を引き出してください。私たちも、そうした幅広い知識と問いかけに、いつも助けられています。

ご多忙のご寄稿、あらためて感謝申し上げます。